



YOROZU 通信 NEWS

Vol.09

2023.1.6 渡邊ゆかり

1,300 問答の建築よろず相談

ニュース 発刊 ; 2023 1月号

設計事務所のリアル『招き猫』🐾

2015年1月まで所属していた(有)翔建築設計では、犬と猫、延べ6匹と共に過ごしました。中でも初代猫のドラミは思い出深い猫です。

ドラミと出会ったのは1999年6月初め。所長と一緒に家々にポスティングをしていた途中、京成電鉄沿線のとある公園脇に停めてあった車の下に、小さな子猫がじっとうずくまっていた。手を延ばしても逃げ出さず、抱き上げると目はつぶっていて、目の周りからあごの方まで毛が抜けて皮膚が荒れていました。近くの動物病院に連れて行くと、獣医さんは開口一番、「飼うんですか？」思わず、「はいっ……」

既に犬のミミが居たので相性が合うのか不安はありましたが、その骨と皮だけの子猫をとりあえず連れて帰りました。獣医さんによるとおそらく生後2ヶ月くらい。体重は400gしかありませんでした。

アレルギーのため目やにがひどく、まぶたはくっついて周りの皮膚も荒れている。再び目が開く

かどうかわからない、と獣医さんに言われました。

それから、なんとかご飯を食べさせ、体を洗い、2週間ほど経った頃目が開いてきました。目が開くと、なかなかの美人さんです。

あと1日保護するのが遅かったら……生後2ヶ月にして九死に一生を得たドラミでした。

2004年夏、どうも様子がおかしいので動物病院に連れて行くと、「子宮蓄膿症です。もう、かなりパンパンなので、破裂したら1分で死んでしまいます。緊急に手術が必要ですが、明日はここ休みなんです……が、明日手術しましょう。」

翌日入院させるまでの15時間が長かったこと。幸い無事に手術を終え、再び九死に一生を得ました。

月日は経って2008年4月、かねてより口内炎があったドラミですが、下の歯茎がやけに腫れているのを発見して病院に行き、「歯

茎がぷっくり腫れてるんですけど……」と言ったとたん獣医さんの表情が険しくなりました。「口の中にできる腫瘍の99%は悪性です。ヘンペイジウヒガンか〇〇〇（忘れた）が考えられます。悪性の場合、切除しても何度も再発し、余命は半年くらいでしょう」……泣きながら説明の続きを聞きました。「とにかく切除手術をして検査に出し、結果を待ちましょう」

その日のうちに緊急手術し、1週間ほど経った頃病院から連絡がありました。「検査結果は良性でした！あなたは運がいい！」これまでも何度か九死に一生を得てきたドラミが、またやってくれました！

病院通いの多かったドラミですが何度かの危機を乗り越え、2012年12月に13歳で他界するまで、ずいぶん頑張ってくれました。ドラミが来てからはHPや雑誌で仕事に来るようになり、ポスティングやDM送付などの必要がなくなったので、所長はドラミを『招き猫』だと、たいそうかわいがりました。

確かにどことなくパワーを秘めていそうな、不思議な印象の猫でした。